環境経営レポート 2019

(対象期间:2018年度⇒2018年11月~2019年10月)







目 决

_【1】会社の概要	1ページ
【2】環境经営方針	2ページ
【3】環境经営目標	3ページ
【4】環境经営計画	3ページ
【5】環境経営目標の実績	4ページ
【6】環境経営計画の取組結果とその評価	4ページ
【7】代表者による全体評価と見直しの結果	6ページ
【8】次年度の環境経営目標及び環境経営計画	6ページ
【9】環境関連法規への違反、訴訟等の有急	7ページ
【10】その他環境活動	7ページ





【1】会社の概要

(1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ カブシキカイシャ 三鎮工業株式会社

ヤマダ ヒロシ 代表取締役社長 山田 浩司

- (2) 事業所住所〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10
- (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

责任者 代表取缔役社長 山田 浩司 担当者 環境管理责任者 山田 浩司 (兼任) 連絡先 電話番号 042-513-0718 FAX番号 042-513-0719

> E-mail info@sanshin-i.com ホームページURL https://sanshin-i.com

facebook https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

(4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ デジカメ、モーター等に使われる精密金属部品の挽物加工

(5) 事業の規模

役業員数:19名

敷地面積:1,652,90m²

建物面積:1,800、37㎡ (2019年4月に工場を207、9㎡増築)

売上額(稅抜):817百万円 ※2019年10月決算

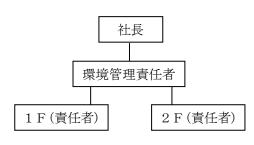
→ 製品 売上 高:666百万円 → 切粉 売上 高:142百万円 → 材料 売上 高: 9百万円

(6) 認証・登録の範囲

全社

全活動 (金属機械加工)

(7) 環境実施体制





【2】環境经営方針

環境经営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において 常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様の ニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

行動指針

- 1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。
- 2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、 廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして 自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について 取り組みます。
- 3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
- 4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、 環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
- 5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、 広く一般に公表します。

制定 2006年1月16日 改訂 2019年1月25日

代表取締役社長



【3】環境经営目標

今年度から2017年度版ガイドラインに移行するにあたり、把握する数値を見直し(税抜金額にする等)、新しい取りまとめ表にて前年度分の排出量を再集計し、新たに環境経営目標を設定した。

	環境目標	目標値
1(1)	二酸化炭素排出量の削減	前年度の月平均以下 12.63 [kg-CO2 /売上百万円]
1(2)	購入電力の削減	前年度の月平均以下 1,186.51 [kWh /売上百万円]
2	廃棄物等排出量の削減	前年度の月平均(9.61)より1%削減 6.28 [kg/売上百万円]
3	水の使用量の削減	前年度の月平均(390.12)以下 381.12 [ℓ /売上百万円]
4	化学物質使用量の削減	前年度の月平均(8.04)より1%削減 6.67 [kg/売上百万円]
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数	10 [件/年] (うち有効提案件数 3 [件/年])

[※] 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO2/kWh(プレミアムグリーンパワー㈱)

【4】 環境经営計画

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

- ●エコドライブを意識する
- ●安全運転を心掛ける(急ブレーキ急発進をしない)

1(2)、購入電力の削減

- ●不要な電気等の電源オフ
- ●デマンド監視装置による節電
- ●営業日の調整(受注と生産数量を管理し、無駄な休日出勤を減らす)
- ●新たな省エネ策の検討と実施
- ●エアコン設定温度の順守

2、廃棄物等排出量の削減

- ●ごみの分別の徹底
- ●ウエス使用枚数の抑制
- ●廃液の削減 ※(4)化学物質使用量の削減と同じ
- ●新たなゴミ削減策の検討と実施

3、水の使用量の削減

- ●個人目標の設定・掲示
- ●個人目標の達成度確認
- ●製造工程(バレル作業)での使用水のムダ防止

4、化学物質使用量の削減

- ●使用時以外は、洗浄機の電源をおとす(蒸発抑制)
- ●廃液を蒸留し再利用する
- ●夏場のチラーの温度管理

5、製品及びサービス向上

- ●改善提案の提出呼びかけ
- ●改善提案賞の表彰

【5】環境経営目標の実績(2018年11月~2019年10月の月平均値)

| 目標達成 | 詳細項目を最低1つは達成 X 目標未達成

	環境経営目標	目標値	実績値	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO2/売上百万円]	12.63	14.73 [kg-CO ₂ /売上百万円] 目標値 <u>+16.7%</u>	0
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,186.51	1,158.44 [kWh/売上百万円] 目標値 <u>-2.4%</u>	0
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.28	7.49 [kg/売上百万円] 目標値 <u>+19.3%</u>	X
3	水の使用量の削減 [@/売上百万円]	381.12	366.37 [ℓ /売上百万円] 目標値 <u>−3.9%</u>	0
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	6.67	7.01 [kg/売上百万円] 目標値 <mark>+5.0%</mark>	X
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[#]	10 (うち有効提案件数 3)	6 [件](5[件]) 目標値 <u>-4 [件]</u> (<u>+2 [件]</u>)	0

※購入電力の排出係数 ⇒ 0.000 kg-CO2/kWh

計算根拠 ◆二酸化炭素総排出量:11,730.98 kg-CO₂/kWh

◆購入電力総量: 928,597 kWh

◆廃棄物総排出量(有価物以外):6,100 kg(一般廃棄物:2,430 kg / 産業廃棄物:3,670 kg)

◆水の総使用量:294,500 ℓ ◆化学物質総使用量:5,750 kg

◆原単位で使用する総売上高は、製品+切粉売上のみ:808百円

⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

【6】環境活動計画の取組結果とその評価

(2018年11月~2019年10月)

1(1),二酸化炭素排出量の削減

- 今年度1月より営業部を設置し、営業車としてハイブリッド車を購入。通常のドライブモードより ガソリン使用量が少なくなるエコドライブモードにて使用している。また、急ブレーキ急発進をせ ず、安全運転を心掛けてもらうよう取り組んだ。
- ⇒ 営業車が1台増えたことで、ガソリンによる 二酸化炭素排出量は増えてしまったが、ガ スによる二酸化炭素排出量は削減に成功 した。

1(2) 購入電力の削減

2017年9月より電力会社を再生エネル ギーを活用した電気(右図参照)を利用し ているプレミアムグリーンパワー㈱に切り替 えたことで、昨年度より電力消費による二 酸化炭素排出量が 0 kg-CO2となってい

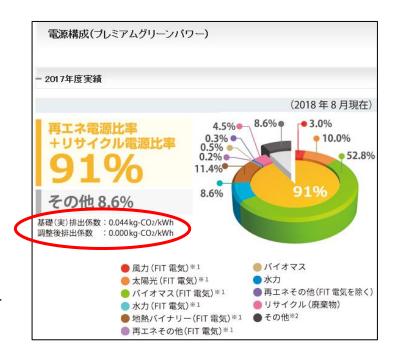
しかし、電気を無駄に使用して良いわけ ではなく、今年度より新たに購入電力の削 減を目標に掲げた。

◎ 新たな削減案として、蛍光灯が残ってい る部分のLED化を実施。9月中旬に1階玄 関、2階、階段の蛍光灯をLED照明に変更

蛍光灯(40W2灯用×104台/40W1灯用 ×34台/20W1灯用×4台/27W×4台)を LED照明に変更し、削減電気料 14,013 kW/h (設置前比較 58.4 % 削減)を見込 んでいる。

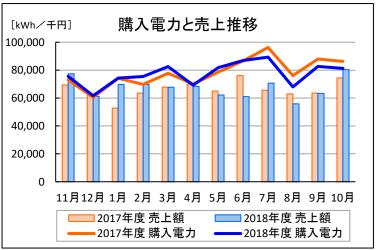
年間二酸化炭素排出量[kg-CO2]

1 1/4 B(10) (3) (4) F = 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10			
	2017年度	2018年度	昨年度比
ガソリン	9,403.68	11,357.14	+20.8%
ガス	549.59	373.84	-32.0%
総排出量	9,953.27	11,730.98	十17.9%



- ◎ 2階の作業場は社屋の西側に面しており、ブラインドがあるものの、夏場は西日によって非常に暑いことが問題となっていた。そこで、遮熱のレースカーテンを設置したところ、熱を遮りつつ光を通してくれたので、エアコンの効きを含め、作業環境が非常に良くなった。
- ◎ 働き方改革として、2017年4月より年間変形労働制から週休二日制へと変更したが、当時は社員数が伴っていなかったため、現場社員は変更前と同じように隔週土曜日を休日出勤として出社していた。そこで、2019年4月に新入社員を多く採用した。また、2017年には生産管理システムも導入しており、運用も軌道に乗ってきたため、受注と生産数量を適切に管理することで、土曜日の出勤数を減らせるようになった。実際に、9月から10月前半にかけては、土曜日の出勤が0となった。
- ⇒ 昨年度末に2基、今年度の3月と9月に1基 ずつ計4基も機械を増設し、売上高も増加 したが、購入電力は削減に成功し、目標達 成。





2、廃棄物等排出量の削減

- ◎ ゴミの分別はキチンと出来ていた。
- ◎ ウエス使用量は、現場社員が増えたにも関わらず使用量をキープできており、良好。
- × 廃液の量は、洗浄量増加に伴い増加している。予備洗浄液(油)が完全に乾く前に製品を洗浄機に投入しなければならず、洗浄液が汚れてしまうペースが速まったため、洗浄液交換の頻度が増え、廃棄量も増加した。
- ⇒ 一般廃棄物は、昨年度 2.44 t、今年度 2.43 t と横ばいであったので、次年度は廃液量を抑えられるよう取り組む。

3、水の使用量の削減

- 今年も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。
- 売上高は増加したが、水を使用するバレル作業量には変化が無く、問題無し。
- ⇒ 水の使用量は大幅に変わることはないので、社員一人ひとりが節水を意識して行動する。

(4)化学物質使用量の削減

- ◎ 洗浄機使用時以外、電源をオフにすることは徹底されていた。
- ◎ 再利用できる廃液はそのまま処分せず、蒸留後に再利用されていた。
- × 廃棄物(廃液)でも記載したが、洗浄液の汚れるペースが上がったため化学物質使用量も増加。
- ⇒ 化学物質使用量自体は増加してしまったが、廃棄物は50%増加したのに対し、購入する化学物質量は約10%増であったので、上記の2点が徹底されていることで購入量が抑えられていると判断している。

5、製品及びサービス向上

今年度より、ISOと連動させた改善提案を目標に設定し取り組んた。

- 総提案件数は目標未達成であったが、有効提案数は目標達成。
- × 賞与に合わせて改善賞を授与することで提出を促してみたが、効果があまり感じられなかっ
- ⇒ 次年度以降は、年に3回ある評価制度に合わせ全員改善提案を提出する仕組みを整えたい。

【7】代表者による全体評価と見直しの結果

今年度、工場の増築や機械の増設があり、さらに売上が増加したにも関わらず、各種取り組みによって購入電力を削減できたことを評価している。LED化や遮熱カーテン等の削減策はもちろんのこと、働き方改革の一環で社員数を増やし休日出勤を調整するなど、環境だけでなく社員にとってもプラスとなる削減策があったことが大きい。

来年度は、製品を洗浄するための化学物質の使用量の削減、及び、その廃棄物排出量削減において、達成できるよう取り組んでもらいたい。製品加工数が増えれば、必然的に洗浄量も増えてしまうが、売上高百万円当たりの原単位では削減が可能なところだと考えている。目標の一つでもある『改善提案制度』を上手く活用し、削減に取り組んでもらいたい。

【8】次年度の環境经営目標及び取組内容

《環境经営目標》

	項目	2018年度 実績	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO2/売上百万円]	14.73	13.54	13.41	13.27
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,158.44	1,160.75	1,149.03	1,137.30
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	7.49	6.82	6.75	6.68
3	水の使用量の削減 [@/売上百万円]	366.37	370.01	366.27	362.53
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	7.01	6.77	6.70	6.63
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[#]	10 (うち有効なもの 3)	40 (うち有効なもの 12)	40 (うち有効なもの 16)	40 (うち有効なもの 20)

[※] 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO2/kWh

今年度より新しい取りまとめ表を用い、さらに管理数値も見直したため、算出できている2年度分の結果の平均値で1(1)から4項目までは目標を立てた。

また、改善提案に関しては力を注ぎたい項目であるので、目標を高く掲げ、年々内容が充実したものになるよう努力していく。

《取组内容》

1年度最低でも1削減策を目標に取り組んできたが、大きな削減案は既に出し切ってしまった。

そこで、次年度以降は社員からの改善提案を中心に、小さなものでもコツコツと削減していく方向へ切り替えていく。

また、毎年度取り組んでいる環境経営活動で継続すべきものは継続し、社員の削減意識が低下していくことの無いよう個人目標を設定することで、排出量が無駄に増えることを抑制する。



2019年3月に屋上の緑化を実施。 撮影した12月でも緑を保っていました。

【9】環境関連法規への違反、訴訟等の有意

	遵守結果	
	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2020年1月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2020年1月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 (騒音規制法・振動規制法)	2020年1月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例(消防法)	2020年1月現在違反無し
注律違反の右無	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2020年1月現在違反無し
法律違反の有無	6.特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2020年1月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	2020年1月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2020年1月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	2020年1月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令, REACH規制等)	2020年1月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2020年1月現在違反無し

[※]関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

【10】その他環境活動

2019年3月、工場の周囲のコンクリートを剥し、緑化しました。緑化をすると、どうしても雑草が生えてきてしまうため、夏場は社員総出で草むしりを数回行いました。





